

11-2

古文(2)

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

芝三島町に菓子をかきなふ新右衛門といへるは、少欲^{*} 至直^{*}にし
て、日ごとに買ふ品の価をあらそふ事なく、^{*} 売^{*}る人の言ふままに
まかせてとめければ、^① 家内の者いぶかりて、「商人はいづれも
同じ事にて、その価の高下をあらそふ^{*} ならひなるに、^② いかなれ
ばかく言ふままには^③ したまふぞ。」と^④ 言ふを^⑤ 聞きて、「かれら
は日ごとに重きを荷ひて、朝は^{*} とく出で、夕べには遅く帰る。こ
とに暑寒の折からはその苦しみ^{*} 言ふべくもあらじ。おのれらは年
中店に居て風雨の^{*} うれへもなく家業を営むは有りがたき事ならず
や。たとひ人にも施す事は為しがたくとも、せめてはその価をあ
らそはずしてもとめなば、少しはかれらがたすけともならんか。」
と言ひける。後々は、新右衛門が[※] ある事を知りて、売^{*}る者
も価を低くして持ち来たりしとらん。

〈大田南畝「仮名世説」より〉

(注) 至直 非常に正直なこと。

売^{*}る人 ところで日用品などを売りに来る行商人たち。

ならひ 習慣。

とく 早く。

言ふべくもあらじ ことばでは表現できないほどだろう。

うれへ 心配。

□ (1) — 線①「家内の者いぶかりて」とありますが、その理由とし

て適切なものを次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 新右衛門がいくら値切っても、行商人が全く嫌がらずに、毎
日毎日、商品売りにやってきたから。

イ 新右衛門が値引きの交渉を全くせず、行商人に言われたま
まの値段で商品を買っていたから。

ウ 行商人が買うように勧めたものを、新右衛門は、必要がなく
てもすべて買っていたから。

エ 新右衛門が自分の店の菓子を、全くもうけの出ない値段で、
行商人に売ってやっていたから。

□ (2) — 線②「いかなれば」の意味として適切なものを次から一つ
選び、記号を○で囲みなさい。

ア どうして イ どのように
ウ どこで エ いつならば

□ (3) — 線③「したまふぞ」の読み方を、現代仮名遣いで書いて答
えなさい。

□ (4) — 線④「言ふ」、⑤「聞き」のそれぞれの動作の主語にあた
るのは、どれですか。次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 新右衛門 イ 売^{*}る人 ウ 家内の者

□ (5) [※] に入ることはとして最も適切なものを次から選び、記
号を○で囲みなさい。

ア 金 イ 才

ウ 力 エ 情

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* 奉公人のはてと覚しきが宿を a 借り、* 四方山のこと語り尽くしけり。* 亭ほめて、「* いかさま、ただの人とは見えさうらはず。もはや休み給へ。* 夜着を * 参らせんや。」と 言ふ。「いや、* いかほどの * 野陣山陣をしつけ、少々寒きことをば知らず。① 無用。」と 言うて、着のまま寝ねけるが、② * 夜ふくるに従ひ、* ひたもの寒し。

時に、「亭主、亭主。③ * 此のねずみには、足を洗はせたか。」と 問ふ。

いや、さやうのことはなしと答ふ。「それならば、むしろを二、三枚着せられよ。ねずみが、着た物を踏まば、* むさからうずに。」と。

〈安楽庵策伝「醒睡笑」より〉

(注) 奉公人のはてと覚しき 以前、武家の家臣だったと思われる者。

四方山のこと いろいろなこと。

亭 亭主(宿の主人)。

いかさま なるほど。

夜着 二 ふとん。

参らせんや 二 お持ちしましょうか。

いかほどの 二 たくさんの。

野陣山陣をしつけ 二 野や山での戦いをし慣れていて。

夜ふくる 二 夜がふける。

ひたもの 二 ひどく。

此の 二 この家の。

着せられよ 二 掛けてください。

むさからうずに 二 不潔であるうから。

□ (1) 本文中に、会話部分で「」のついていないところが一箇所あります。その部分を書き抜いて答えなさい。

□ (2) 線 a、d の中から、主語が他と異なるものを選び、記号で答えなさい。

□ (3) 線 ①「無用」とありますが、何が無用のですか。次から最も適切なものを選び、記号を○で囲みなさい。

ア ほめことば イ ふとん

ウ 着がえ エ 睡眠

□ (4) 線 ②「夜ふくるに従ひ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

□ (5) 線 ③「此のねずみには、足を洗はせたか」とありますが、なぜ、このように聞いたのですか。最も適切なものを次から選び、記号を○で囲みなさい。

ア 寒さにふるえているであろうねずみがあわれで、ねずみにむしろを掛けてやってほしかったから。

イ ねずみの足が汚れていると、自分の着物を踏まれた場合に着物が汚れるので心配だったから。

ウ 不潔さにかこつけて、夜具の代わりにかぶるものをもらって、寒さをしのぎたかったから。

エ 宿があまりに寒くて不潔なので、外で野宿をする方がましだと思ひ、皮肉を言つてやりたかったから。

12-1

文法

付属語

確認問題

1 次の文の付属語を○で囲みなさい。()の中は付属語の数です。

例 カエルが 歌を 歌う。(2)

□(1) 大きな 声で 話す。(1)

□(2) 学校から 五時に 帰る。(2)

□(3) 父は 明日から フランスへ 行く。(3)

□(4) 友達と おしゃべりするのとは とても 楽しい。(3)

□(5) その ころは、食べ物 が 不足して いた。(4)

2 次の説明のうち、助詞にあてはまるものにはAを、助動詞にあてはまるものにはBを、「」に書き入れなさい。

□(1) 活用する付属語である。

□(2) 活用しない付属語である。

□(3) 主として用言に付く。

3 次の――線部の付属語は助詞ですか。助動詞ですか。助詞ならAを、助動詞ならBを「」に書きなさい。

□(1) 明日^①は 晴れる^② だろ^③う。

□(2) 風^①は ない^②が、花^③が 散っ^④た。

□(3) 母^①が 弟^②に 部屋^③の 掃除^④を さ^⑤せ^⑥た。

□(4) テレビ^①でも 見よう。

4 次の――線部の助詞の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

□(1) テレビ^①でも 見よう。

□(2) 犬^①が 走り回る。

□(3) 苦しく^①ても がんばる。

□(4) 一緒^①に 行こう^②よ。

□(5) わたし^①は 大丈夫。

ア 格助詞 イ 接続助詞
ウ 副助詞 エ 終助詞

5 次の——線部と同じ意味の助詞をあとから選び、記号で答えなさい。

□(1) 空の青い日は、気持ちまで晴れ晴れとする。〔 〕

ア この青いひもが付いているのがわたしの靴だ。

イ 父の車は、五年前に買ったものだ。

ウ わたしの編んだぼうしは、妹によく似合う。

□(2) 先生にしかられてしまった。〔 〕

ア 友達と図書館に行く。

イ 母に起こされて早く起きた。

ウ やつと頂上にたどり着いた。

□(3) イギリスからメールが届いた。〔 〕

ア 祖母は、風邪から肺炎を起こして入院した。

イ 名古屋からおいしいお菓子が送られてきた。

ウ 小麦粉からうどんを作って食べた。

□(4) サッカーでもしよつか。〔 〕

ア のどが渴いたので、ジュースでも飲もう。

イ こんな問題なら小学生でもできるよ。

ウ 大声で呼んでも、なかなか来てくれなかった。

□(5) 三十分ばかり待っていてください。〔 〕

ア 父は、帰宅したら野球ばかり見ている。

イ 顔がゆがんで、今にも泣き出さんばかりだ。

ウ 箱の中にチョコレートが十個ばかり入っている。

6 次の——線部の助動詞の意味をあとから選び、記号で答えなさい。

□(1) クラスの全員に注目された。〔 〕

② お客様は朝早く家を出発された。

③ 遠くに住んでいる祖父のことが思われた。

④ 学校までは近かったので、二分で行かれた。

〔ア 受け身 イ 尊敬 ウ 自発 エ 可能〕

□(2) 午後からかみなりが鳴ろう。〔 〕

② さあ、みんなで大きな声で歌おう。

③ 今年こそ、五十メートル泳げるようになろう。

〔ア 意志 イ 勧誘 ウ 推量〕

□(3) 去年、弟が生まれた。〔 〕

① もう宿題は終わった。

② 壁にかかった絵は、有名な画家が描いたものだ。

④ 電話をくれたよね？

〔ア 過去 イ 確認 ウ 存続 エ 完了〕

□(4) もうすぐ勝負がつきそうだ。〔 〕

① 合唱コンクールで九州代表が優勝したそうだ。

〔ア 伝聞 イ 様態〕

□(5) あの雲は、まるで草原の羊のようだ。〔 〕

① みんな、もう集まっているようだ。

〔ア 比況(たとえ) イ 推定〕